

サクランボ雇用218人

今年のサクランボは、収穫などの作業現場で218人の雇用があった。新型コロナウイルス感染症拡大による県境を越える移動自粛の影響で、県外者は昨年の37人から6人にとど

コロナで県内者大半 求人511人には届かず

JAグループ山形地域・らんぼひがしね、さがえ西担い手サポートセンターが村山、てんどう、やまがた無料職業紹介事業を行っての主産地JAからの聞き取りでまとめた。

えた。コロナの影響で休園した観光果樹園からの求人も目立ち、さがえ西村山管内では求人全体で昨年より45人も増えた。求職者のうち県内は322人、県外が35人。休業した県内の飲食やサービス業界の他、学生のアルバイトや若年者からの求職が増えた一方で、幼・保育園や学校の休園・休校の影響で、子育て中の主婦の求職数が減少した。1泊朝食付き3500円のサクランボ援農プランを企画したビジネスホテルもあり、3人がこれを利用して収穫などの作業に従事した。JAグループ山形は今年、新型コロナウイルス防止の観点から、JAの無料職業紹介事業による地域内での労働力確保を基本に取り組んだ。新たに県観光物産協会や県内の旅館ホテル、社交・飲食、麺類業界にもちらしを配り、求人ウェブサイトなどによる求人・求職者のマッチングに努めた。サクランボの生産現場からは例年、500人程度の求人があり、これに対し、求職者は300人程度、雇用は200人程度とされる。今年もこれにおおむね近い数字が表れた。人手の確保は依然、大きな課題だ。今年の収穫量は確定していないが、県などのシーズン前の調査では1万3200トと、昨年より1割ほど多い予想だ。